


細田衛士研究会

*教授紹介

名前：細田 衛士（ほそだえいじ）

職位：教授

略歴：

1953 東京生まれ

1977 慶應義塾大学経済学部卒

1982 同大学経済学部研究科博士課程修了 経済学部助手

1983 英国マンチェスター大学にブリティッシュ・カウンシル・スカラーとして留学

1994 慶應義塾大学助教授 教授

2001-2005 同大学 経済学部長

専門領域：環境経済学・理論経済学

担当科目： 環境経済学（三田）

Environmental Economic Theory (PCP)

主な著書:

『環境経済学』（共著,有斐閣,2007）

『資源循環型社会リスクとプレミアム』（編著,慶應義塾大学出版会,2009）

『資源の循環利用とはなにか』（岩波書店,2015）



*教授からのコメント

本研究会は、環境経済学を学習し環境問題を経済学的な立場から研究することを目的としています。地球温暖化問題、水問題、公害問題、廃棄物・リサイクル問題など、環境問題は多様ですが、経済学はこうした問題を鋭くえぐりとり、分析する力を持っています。本研究会では、主に、経済理論的、制度論的そして実証的方法によって問題を分析し、自分なりの政策提言をすることを最終目標としています。したがって、本研究会志望者には、ミクロ・マクロ経済学や計量経済学の基礎知識が求められます。

しかし、ただ単に理論を学習すれば問題が見えるというわけではありません。理論と同時に現実を知らなければならぬのです。したがって、現実の環境問題への研ぎ澄まされた感覚、思いも必要です。

本研究会を志望する学生は日常的に環境問題に興味を持つことが大事です。





*入ゼミ選考について

昨年度はA日程、B日程を実施（注：例年はA日程のみの実施が多いです。）

○A日程

応募人数8名、合格人数8名

○B日程

応募人数8名、合格人数6名

〈選考方法〉

①事前レポート：以下のレポート課題を締切日（HPに掲載）までに提出。

〈事前レポート課題〉

A日程：次のテーマより、どちらか一つを選び、そのテーマについて論じなさい。

(ア)「環境保全と経済発展はいかにして両立可能か」

(イ)「日本の環境問題」

文字数：5000字程度

B日程：「今自分が興味ある環境問題を一つ取り上げ、自分なりの解決策を提示しなさい」

文字数：3000字程度

2015年度B日程（最大10名程度募集）では事前レポートはありません。

※内容を表す副題をつけても構いません。

※ゼミ生が昨年度提出した事前レポートをHPに掲載するので参考にして下さい。

②筆記試験：マクロ経済学・ミクロ経済学、一般教養問題の試験をそれぞれ行います。

※マクロ経済学・ミクロ経済学の試験に関しては過去問をHPに掲載しております。

※一般教養問題は範囲と難易度の割にウエイトが非常に軽いため対策不要です。気軽に受けてください。

③面接：先生と学生による面接試験を事前レポート、筆記試験、学業成績表を元に行います。

※成績表の提出は必須です。但し、成績の良し悪しによって選考されることはありません。

*その他・連絡先等

連絡先：hosoda.nyuzemi@gmail.com

HP: <http://seminar.econ.keio.ac.jp/hosoda/root/top.html>

ブログ:<http://hosoda-seminar.blogspot.jp/>

Twitter:@hosoda_semi2015





*年間スケジュール

	春学期	夏合宿	秋学期
本ゼミ(水4・5)	今週のトピック テキスト輪読	1万字論文	今週のトピック テキスト輪読
ディベート(水6)	本ゼミ後に テーマに沿って行う	先生の前で発表	
サブゼミ(金4)	諸連絡 パートゼミ準備		諸連絡 パートゼミ準備
環境パート(金5)	プレゼン・論文執筆		プレゼン・論文執筆
理論パート(金5)	トピック・輪読		トピック・輪読
フィールドワーク論文	春学期を通じて 論文執筆	先生の前で発表	
インゼミ論文			年末に他大学と 合同で発表

✓ フィールドワーク（春学期）

班に分かれ、その班が選んだ環境問題のテーマに沿って企業・官庁訪問、現地調査（フィールドワーク）を行い、論文執筆に役立てます。そして、夏合宿時に先生の前でプレゼンテーションによる発表を行います。文献やインターネットには掲載されていないものの、客観的論述を行うために必要な情報を自らの手で掴み、論文に活かす経験を得ることが目的です。

また、発表した中で最も優秀であると先生が判断した1班が三田祭論文発表会の選考に出典されます。つまり夏休みには三田論作成作業が終了し、後期はインゼミに主軸が移ります。

✓ インゼミ（秋学期）

秋学期のメイン活動となります。中央、京都、同志社、一橋大学の環境系のゼミが論文を持ち寄って合同発表会を行います。インゼミ（インターセミナー）用の論文執筆は2班に分かれて行い、これまでに積み上げた経験を活かして論文を執筆します。





✓ 本ゼミ（水曜 4・5 限）

1. 今週のトピック

3年生の担当者が、2週間以内に起きた環境分野における出来事から関心のある新聞記事を選び、15分間のプレゼンテーションを行います。現在進行形で取り扱われている問題を先生・ゼミ生と共に考えながら、より実践的な知識を共有する機会となっています。

2. テキスト輪読

指定されたテキストをゼミ全体で読みます。担当者は内容を簡潔にまとめたレジュメを作成し、それをを用いて発表します。幅広い知識を持つ先生や先輩の補足を頂くことで、より深い知識を身に付けることができます。また内容から派生した知識を得ることもでき、最も伝統的なゼミらしい時間となっています。

✓ サブゼミ（金曜4限）

ゼミ活動をより有意義にするための相談や各系の諸連絡を行い、全体でゼミの現状を共有します。また、パートゼミの準備時間としても活用されます。

✓ パートゼミ（金曜5限）

〈環境パート〉

環境パートでは班に分かれて、共通のテーマのもと、先輩方や他の班から指摘や質問を受けながら、月に1本論文を執筆します。1週目から3週目までは現状分析・問題提起・政策提言という流れで各班15分のプレゼンを行い、コメントをもらいます。そして4週目に論文を執筆し、環境パート全員で各班の論文を読み、細かい訂正をした後、完成した論文を先生に提出します。

〈理論パート〉

理論パートでは先輩方の指導のもと、事例に応用することを目指して、より深く環境経済学を学ぶ上で必要な経済理論を学んでいきます。流れは本ゼミと同じで、初めにトピック発表を行った後、指定されたテキストを輪読形式で読み進めていきます。

✓ ディベート（水曜日6限 ※春学期のみ）

夏合宿の本番に向けて、5月頃から週1回ディベートを行います。4チームに分かれて、毎週決められたテーマについて肯定側・否定側で討論し合い、先輩方からフィードバックをしていただきます。

